

特定非営利活動法人分析産業人ネット

# 第 12 期活動報告

平成 27 年度

2015.4～2016.3

## ご挨拶

理事長 澤田嗣郎

設立 12 年目は、中長期計画に沿い、持続可能な経営を目指して 1 年間活動をおこないました。今年度は通信販売事業の見通しがたち、簡易機器事業が立ち上がり、持続可能な経営に一步近づきました。来年度は幅広くボランティアの協力を仰ぎ、目標達成に向けて活動を推進します。皆様方の活動への御支援、御鞭撻を引き続きお願い致します。

## 平成 27 年度の活動概要

平成 27 年度の我が国経済は 5 年後の東京オリンピックの準備や訪日外国人の増加により、一部の地域や業界で活況を呈したものの、為替の円高傾向、中東での地域紛争、欧州でのテロと難民流入による社会不安、中国経済の変調等の海外要因もあり、加えて株式市場の低迷等で、設備投資も手控えられる傾向がみられて景気は一進一退となり、1 月には日銀のマイナス金利の導入があったものの、景気上昇への効果は年度内には見られませんでした。このような状況の中で、人材育成事業では内容の充実をはかり、振興普及事業では通信販売事業の確立と簡易機器事業の立ち上げに注力しました。また、社会貢献事業では新たにマレーシア日本国際工学院での日本語スピーチコンテストの支援を行いました。

人材育成事業の中で資格認定事業は一斉試験と団体試験の受験者共、減少し、検査分析マーケティングエキスパート資格認定事業は依然として今年も受講者の増加をはかることが出来ませんでした。トリニティスクール事業においても、新規の講座の開発に手間取ったために講座数の増加が出来ず、前年度並みの結果に終わりました。

振興普及事業では、ビジネス支援事業の Pittcon 出展の支援業務を受託出来ませんでした。展示会の一日目開催の有料のランチョンミーティングの参加者が初めて 30 名を超えました。コンテンツ制作事業(出版事業)は今年度も「携帯型分析機器ガイドブック 2015」を発行しました。簡易機器事業では簡易光度計の実用機が完成し、ユーザーに貸与して使用法を探ると共に販売を開始しました。

社会貢献事業は、昨年引き続き日本において機器分析に関するナーチャー賞エッセイコンテストを実施、タイ国で泰日工業大学の学生への奨学金の提供と日本語スピーチコンテストの賞金提供による日本語教育への支援等の他、引き続きバングラディッシュ国の中高生の理科教育の推進への支援を行いました。また新たにマレーシアのマレーシア日本国際工学院に対する日本語スピーチコンテストの支援を開始しました。

## 平成 27 年度の活動組織

日常業務の他に各事業に関する市場調査や、新規の講座の開設や冊子の制作、簡易機器の開発等を行う事業推進センターで、今年度は通信販売で取り扱う商品の発掘や簡易機器事業で使用する簡易光度計の開発等実施しました。

## 今期のトピックス

TNI の日本語スピーチコンテストに日本大使館書記官が臨席される(9月)

2015年に赴任した佐渡島大使が「東南アジアの人材育成の支援」を推進するという日本政府の政策を受けて、日本語教育の実情についての調査で泰日工業大学を訪問しました。その席でスピーチコンテストのことが話題となり、9月に開催された泰日工業大学の日本語スピーチコンテスト視察に日本大使館の寺島一等書記官が訪れました。書記官はコンテストの開始から18組の日本語でのコンテストをすべて聴講して戴きました。泰日工業大学の日本語スピーチコンテストは2009年に開始し今年で7年目となります。毎年、9月に行うコンテストは3年生を対象としてクラス別のチームで対抗する方式でおこなわれ、クラスの中で2~3人でチームを結成しクラス中のコンテストをします。この結果、成績1番のチームが9月のコンテストに参加します。今年の課題は「タイの国を良くしよう」で、コンテストには18チームが参加しました。



開会を待つ寺島一等書記官

簡易光度計の初出荷なる(12月)

比色計として利用できる簡易光度計の商品機が完成して JASIS 展で披露しました。当初は簡易光度計を販売ではなく貸与という形態で使用してもらい、実用になるかどうかを見極めるつもりでしたが、貸与ではなく購入したいとの要望が強くあり、11月に最終的な仕様を確定して販売を開始しました。今回の購入理由はいずれも研修用の使用とのことです。12月の初出荷は同時4台出荷、続いて1台出荷して計5台の出荷をしました。更に2月に1台出荷し、今年度の販売台数は6台となりました。同時にネットバザールのポータブル機器の欄に掲載して通信販売も開始しました。この簡易光度計の特徴は、比色法による大量の基本の学習に最適で、機器の仕組みがわかるスケルトン構造、しかも LED の交換で様々な資料の濃度測定が可能なことです。



簡易光度計の商品機

マレーシア日本国際工学院 (MJIT) で日本語スピーチコンテスト(12月)

泰日工業大学での日本語スピーチコンテストの成功にちなみ、当法人で賞金を提供して第1回の日本語スピーチコンテストが行われました。このスピーチコンテストでは大会を開かず応募者はスピーチをビデオにして応募し、このビデオのスピーチを聴いて採点をします。今年は19名から応募がありました。優勝者はスピーチを宮川眞喜雄在マレーシア日本大使にも立ち会いのもとに行いました。

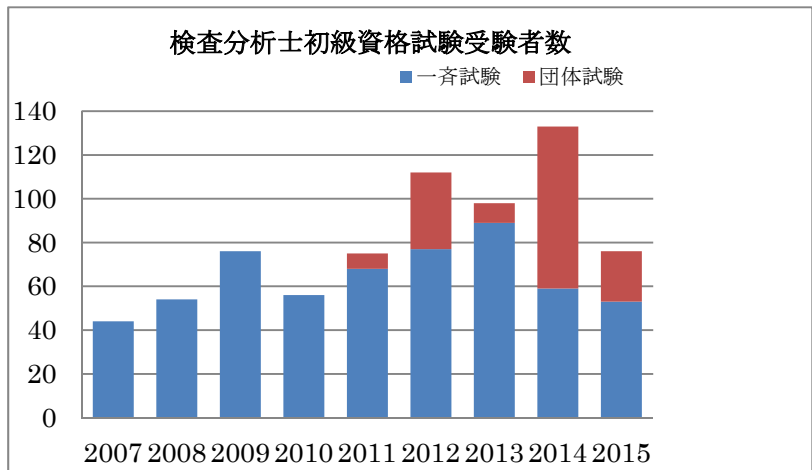
## 事業報告

### I. 人材育成事業

人材育成事業は当法人のビジョン「分析技術を担う、世界に通用する人材の育成」を目指して実施しています。

#### 1. 資格認定事業

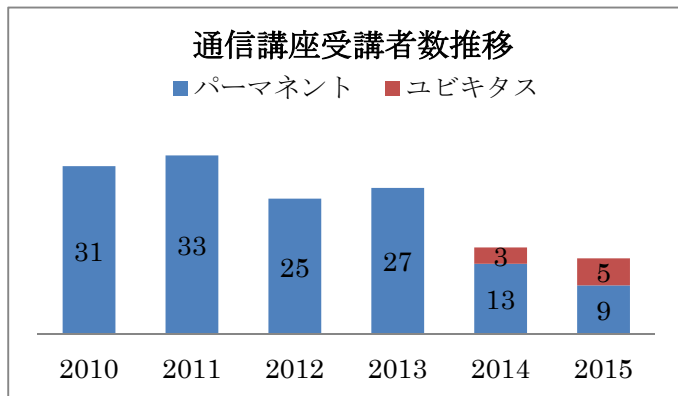
検査分析士と検査分析士マーケティングエキスパートの初級と上級の資格認定試験を2015年8月1日（土）の午後、札幌、仙台、東京、名古屋、京都、福岡の6都市で同時に同じ会場で行いました。受験者は検査分析士が53名、検査分析マーケティングエキスパートが1名でした。これに対して団体試験は1団体で受験者は23名で、初級試験の受講者は昨年に比べて、一斉試験で1割減に対して団体試験では7割減となりました。また、特級資格試験の受験者は現在1名です。初級合格者を対象とした検査分析士会では会員を対象として実施している研修会に、今年度より会員相互の交流をはかるため、会員による事例報告の機会を設けました。



#### 2. トリニティースクール事業（講習会・通信教育事業）

今年度の講習会は昨年と同様のテーマで講座を開催した他、実習講座を開催しました。この結果、受講者が2桁となりました。一方、通信講座については新規に講座を開催することが出来ず、引き続いて受講者数が減少しました。今年度はJASIS展に合わせて有料のセミナー「携帯型分析機器の技術進歩と現場での活用」を開催しました。

	パーマネント講座	ユビキタス講座	合計
2010	11		11
2011	12	7	19
2012	12	7	19
2013	12	10	22
2014	14	12	26
2015	14	13	27



## II. 振興普及事業

振興普及事業は当法人のビジョン「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」を目指して実施しています。今年度より簡易機器事業が加わりました。

### 1. ビジネス支援事業

今年度も国内は毎年4月に開催されるCPhI展（国際医薬品原料・中間体展）と9月に開催される機器分析の展示会JASIS展にブース出展を行いました。4月のCPhI展では簡易光度計の実演デモと資格認定事業紹介、JASIS展では今年も東京環境経営研究所と連携しそれぞれ2ブースを使って展示を行いました。当法人は資格認定事業や通信講座のテキスト等を展示し、簡易光度計の実演を行いました。またJAISIS展ではPittconのブース出展の支援を行いました。

米国アトランタで3月に開催された機器分析のコンファレンスPittconではブース出展とコンファレンスで“Characterization of Micro/Nano Liquid Phases”のテーマでセミナーを開催しました。日本からの参加者を対象にした展示会初日の有料のランチョンミーティングには30名余の参加者がありました。ブース出展では開発した簡易光度計の展示を行いました。



CPhI展での光度計の展示

### 2. コンテンツ制作事業(出版事業)

今年度はJASIS展に向けて「携帯型ガイドブック2015」を編集し、出版を行いました。また、ネットバザールを通じて委託本の販売を行いました。

### 3. ネットバザール事業（通信販売事業）

商品群の拡充と商品の品揃えは目標に達しませんでした。簡易光度計を中心にポータブル機器とラボ用消耗品の受注が増加しました。ポータブル機器はJASIS展でのブース出展後の10月以降に受注が増えました。

### 4. 簡易機器事業

昨年度に試作した光度計の実用化と市場導入を推進しました。機器の使い勝手等についての検討のために、装置の貸与をしました。比色計として使用出来る光度計の他蛍光光度計、濁度計、吸光度計の4機種を揃えて、岐阜県大垣養老高校に2光源の光度計と蛍光光度計を、また、赤と青の光度計2台とコンピュータ制御の吸光度計を武蔵大学、濁度計をベジテック株式会社に貸与しました。一方、試作機より小型の光度計の商品機が完成し、JASIS展での展示等で宣伝を行った結果、12月に初出荷が出来、今年度は6台の売り上げを計上出来ました。

### Ⅲ. 社会貢献事業

当法人の社会貢献事業は日本においては「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」のビジョンにそって機器分析に関するエッセイコンテストを実施、タイ国においては「分析産業人ネットの慈善活動」で掲げたビジョンに基づいて実施しています。

#### 1. 機器分析に関するエッセイコンテスト

エッセイコンテスト募集を9月に開始し、11月中旬に応募を締め切って、12月に選考委員会を開催して受賞者を決めています。第7回となる今年度の応募総数は12件でした。多くの方を受賞者にとの方針で、大賞1名と優秀賞3名の他、ステュディオス賞3名、ノウィ・ホミネス賞1名、の方が受賞されましたが、ファーストペンギン賞の該当者はありませんでした。表彰式は、新年交流会の会合時に行いました。今年は記者会見パネルを背景にして授賞式を行いました



新制した記者会見バックパネルの前で表彰

#### 2. タイの泰日工業大学の日本語スピーチコンテスト

9月に3年生を対象とするコント形式のコンテストを、1月に日本語の履修時間が多い学生を対象としたスピーチ形式のコンテストが行なわれました。今年は1月のスピーチコンテストの応募者が27名と倍増し、1次審査を行って14名の方がスピーチコンテストに参加しました。(詳細は今期のトピックス参照)

#### 3. タイの泰日工業大学学生への奨学金 (PAI-NET FUND)

今年度も2年生、3年生、4年生各3名に対して一人3万バーツの奨学金を支給しました。この奨学金は6月から3月まで、毎月3,000バーツ支給します。タイの学校は6月が新学期、4月と5月が夏休みです。奨学金の授与を始めてから8年となり、既に15名の奨学生が卒業して働いています。奨学生の同窓会が不定期ですが開催されるようになり、今年度は5月末の新学期の始まる前に開催しました。

#### 4. タイの泰日工業大学の日本語科への図書への寄贈

日本語科の先生方は授業にあたって、教材をつくりながら講義をしています。教材をつくる時の参考書となる図書を先生方のリクエストにより日本で調達して寄贈しています。

#### 5. バングラディッシュの理科教育への支援

NPO法人、サイエンスフォーラム21を通じて支援を行っています。毎年、バングラディッシュの3都市で研究会を開催しています。

#### 6. マレーシア日本国際工学院での日本語スピーチコンテスト

今年より、泰日工業大学での日本語スピーチコンテストは学習機会の増大とそれに伴って学習意欲の向上に効果があることを知り、支援を要請されて実施しました。

## IV. 法人の運営状況

### 1. 組織

当法人の運営は理事会で経営方針、経営計画等を審議し、事業については外部の委員も加えた委員会において経営計画に基づいた活動計画等の審議をし、また事業活動を補佐する会議で実務に対するアドバイスと支援を行っています。具体的な実務は、理事会等で決められた方針、計画に基づいて事務局と事業推進センターで行います。実務は事務局の事業センター兼任を含む常勤者 3 名と会員及び検査分析士会の会員のボランティアにより行っています。講習会・セミナーの講師の一部は外部に依頼しています。

### 2. 財務

当法人の活動は会員の会費収入、寄付、事業収入を基に行っています。米国の NPO 法人の収入は平均で事業活動の収入が全収入の 75%程度あります。当法人では持続的な活動の継続のためには寄付に頼らずに事業活動による収入が全収入の 8 割となることを目標にしていますが今年度も事業収入は思うように増加せず、全収入の 6 割弱に留まりました。また寄付に関しても、少数の大口寄付に頼っている現状を改善しなるべく多くの方から小口の寄付が戴けるように寄付方法の改善をはかっています。

### 3. 投資

当法人の広報活動の基盤となるホームページ等への投資は昨年で一段落し、今年度は事業活動のための知的資産への開発投資が中心となりました。光度計を基本とする応用商品の開発への投資の他、スクール事業で使用出来る動画の制作の投資を行いました。通信販売事業の本格化に伴い、商品在庫へも一部投資を振り向けました。販売促進のための投資は冊子の制作や展示会用のパネルの作成です。

### 4. 広報

当法人の広報は WEB をベースとした広報活動と会報を中心とする紙媒体の広報活動を組み合わせて行っています。

会員向けの広報は紙媒体の会報誌が中心です。分析産業人ネットの会員向けに会報誌「NURTURE」を、検査分析士会会員向けの会報誌「SHUHARI」を季刊で発行しています。外部向けにはビジネス支援事業の推進のために Pittcon2016 ガイドを発行しました。

外部向けの広報ではホームページを活用してセミナー・講習会の告知、資格試験の案内等を行っています。これらの参加者募集や受験申し込み等は告知と共にホームページ上で行えます。Facebook、Twitter による発信を随時行うほか、2 週間に 1 回の頻度で E-mail ニュースを発行しています。

特定非営利活動法人分析産業人ネット

英文名 Professionals' Net Work in Advanced Instrumentation Society

設立 2004年11月24日

事務所所在地 〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町2-6 淡路ビル4F

電話 03-5294-3115 FAX 03-5294-3344 E-mail [info@pai-net.or.jp](mailto:info@pai-net.or.jp)